

# 03

## 静寂の世界を堪能する別荘

物件名\_Villa N 設計\_岡田哲史 岡田哲史建築設計事務所  
所在地\_長野県 家族構成\_夫婦+子供2人+犬2匹

山肌に抱かれ雄大な山並みを望む Villa N。  
別荘建築を数多く手掛ける建築家、岡田哲史さんは  
美しい建築に求められる条件とは  
「端正な空間に清らかさと優しさが漂う品位」といいます。

撮影:川辺明伸 編集:高坂敦信、滝口沙音里



ダイニング・キッチンを囲むガラスの壁をスライドさせ、開放したときの風景。室内の空間が屋外のテラス、それに続く庭園へと拡張される。屋根を支える構造柱がコーナーにない点にも注目。庭園のランドスケープ・デザインも岡田さんが手掛けた。

BEAUTIFUL VILLA VIEWS

シンプルで素朴な佇まい、  
けれんみのない上質の建築美がある

底の深いシンプルな建築が、周囲の豊かな自然と渾然一体となり、快適で美しい空間をつくりだす。広々としたテラスはアウトドアリビングとしても活用されている。



1 リビングとダイニングの床面は、敷地に合わせて80cmのレベル差があり、対角線の方向にお互いの視線が通い合う空間となっている。2 山に向かって幅の広いリビングでは、暖炉側にポール・ケアホルムによるシンプルな家具、テラス側には大人数でくつろぐことができる大きなソファが置かれ、雰囲気異なる場所性が生まれている。3 リビングの先端では深い庇の下に屋外テラスが連続しており、山林の新鮮な空気を楽しめる場所となっている。室内のソファのブランドはモルテーニ。



## 引き算で豊かな建築をつくる

この別荘は、長野県の避暑地としてにぎわう別荘地からは少し離れた町の小高い丘に立つ。敷地を訪れた当初、そこは手つかずの広大な自然林でした。公道から200mほど入ったところで、壮麗な山並みが目に飛び込んできたのです。いつになくエキサイティングな瞬間でした。そう語ってくれたのは建築家の岡田哲史さん。20年以上にわたり数多く携わってきた別荘建築は名作ぞろいで、イタリア建築家協会の名譽委員に任命されるなど国際的にも評価が高い。岡田さんの端正なデザイン

は、シンプルでありながら居心地がよく、細部まで配慮されていて使いやすいと定評がある。空間の大胆さとディテールの繊細さが程よくバランスされ、それを経験した人の多くを「美しい」とうならせてきた。岡田さんにとっての「豪邸」に派手好みの豪華な美は無縁のようだ。長い年月を経ても色あせない建築には、ものや空間の本質を見極めた品格と優美さが備わっている。足し算ではないのです。引き算で美しいものをつくること。それをプロとしての持ち味にしたい」という。

今回の建築の設計では「コンテナ・ストラクチャー・システム」（以下「CSS」）が適用された。CSSは、岡田さんが大学で2005年の研究開発を進めていた2009年に発売した設計手法で、最初に応用された建築作品「清里アートギャラリー」はイタリア国際建築賞でグランプリを受賞した（本誌ML187号掲載2009年）。CSSとは、複数のコアに「建築の主要構造」と「建築空間を容れるコンテナ」の2つの役割を同時に担わせるところに特長がある。おのおのコアをガラスの空間で連結すれば、「オープンな空間」と「クローズドな空間」を併せもつ建築ができるという画期的なシステムだ。岡田さんはCSSをこれまで大小の建築プロジェクトに応用してきたが、この建築はRC造に適用した代表例になるだろうと語る。

建物は6つのコアと、それらをつなぐガラスの空間で構成されている。コアには浴室やトイレ、収納や階段などが収容され、ガラスの空間はリビングやダイニングキッチンなどが割り当てられている。公道から建物本体までは全長200mにも及ぶアプローチ道路が連絡し、地上からは大階段を経て上階のエントランスポーチへと至る。エントランスに入り、天井が低く抑えられたロビーを抜けると、リビングに向かう扉を開けた瞬間、想像を絶する景色が目飛び込んでくる。「この場所だからこそ味わえない壮麗な山並みを巨大な屏風絵のように見せたかったのです。」

四季折々、時々刻々変化する、まさに生きた屏風絵として」と岡田さんは話す。

ダイニングキッチンは大きなテラスを介して南側の庭と連続する。驚きなのは、全面ガラスの大きな壁が動くことだ。ガラス壁をすべて開け放つと、屋内と屋外が1つの世界になる。大人数でパーティをするときもBBQをするときも、山の別荘ならではの豊かな空間演出が考えられている。下階にはゲストルームに加え、サウナや水風呂を備えた広い浴室がある。動くガラスの壁は浴槽を囲むコーナーにも設置されていて、スライドさせて全面開放すれば露天風呂感覚で入浴を楽しめる演出になっている。

豪奢であることだけが豪邸ではない。端正な空間に清らかで優しさが漂う品位こそ、岡田さんならではの豪邸の証しなのだ。



森に浮かぶ、森に潜む  
四季折々の豊かな世界が非日常を包み込む



斜面にかかる場所は上下2層の構成となっている。上階の屋外テラスが、下階の浴室にとっては深い庇として機能する。浴室のガラス壁を開放すると前庭と連続する。



「コンテナ・ストラクチャ・システム」により建物にリズムカルな構成美が生まれ、柔らかな光を緑取りながら森に浮かび上がる。

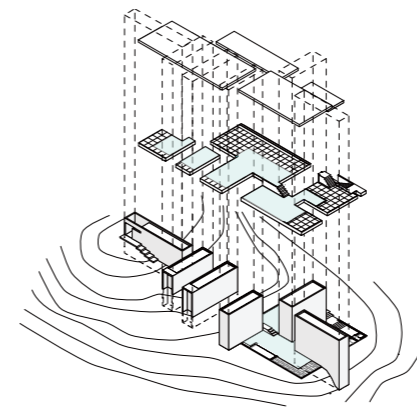


ダイニングキッチンをL字形に囲むガラスの空間、ガラスの壁はスライド開閉でき、全開すればダイニング空間がテラスと連続する。



6

4 建物は樹々が繁茂する山肌にひっそりと佇む。麓から見上げると、建物の姿は春から秋にかけて見えなくなる。5 公道から長いアプローチ道路を経てVilla Nの懐にたどり着く。建物の尊厳をたたえつつも、周囲の自然へ溶け込むように寄り添う建築が美しいランドスケープと共に実現されている。6 小高い丘の林に囲まれたVilla N。切り通して新設されたアプローチ道路は自動車からの視線が意識され、庭園の地面より1.5m程下を走り建物本体へと至る。

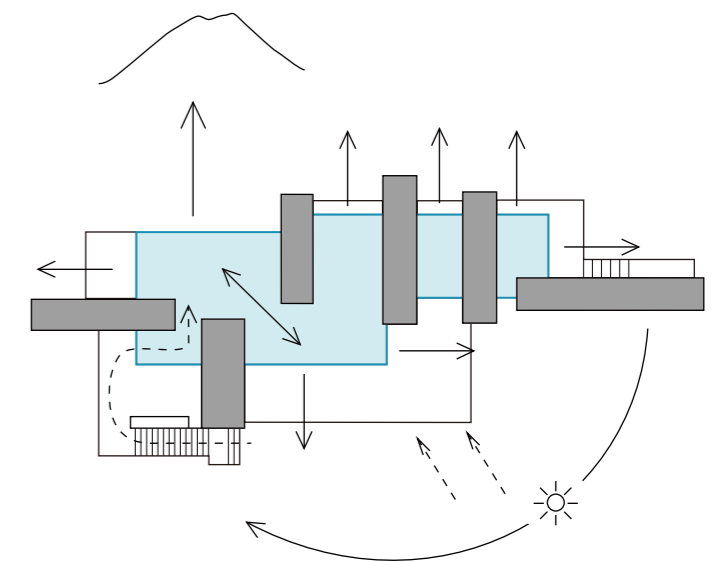


Villa Nの構成を単純化した概念図。6つのコアが斜面地にかけてバランスよく配置され、コアの周囲に全面ガラスの壁で囲まれた明るく開放的な「ガラスの空間」がつけられる。



周囲の自然に寄り添い、  
光の変化を眺めて一日が過ぎゆく

5



■ コア (主要構造とコンテナの役割)  
■ ガラスの空間 (コア相互を連結する役割)

岡田さん発案の「コンテナ・ストラクチャー・システム」は、「コア」とその周囲の「ガラスの空間」で構成される。コアは建築構造としての重要な役割を担うと同時に、建築空間を内包するコンテナとしての役割を担っている。



7



DATA

- Villa N
- 設計\_岡田哲史建築設計事務所  
岡田哲史+寺田達哉+松井瑠希也+岡田理佐
- 敷地面積\_2998.18㎡
- 延床面積\_677.57㎡
- 1階\_273.74㎡
- 2階\_403.83㎡
- 家族構成\_夫婦+子供2人
- 所在地\_長野県
- 用途地域\_第一種低層住居専用地域
- 構造\_RC造
- 構造設計\_北條建築構造研究所
- 工事期間\_2021年5月~2022年11月
- 施工\_笹沢建設 佐藤 潤
- キッチン製作\_アムスタイル 清水、桑原
- ランドスケープデザイン\_岡田哲史+箱根植木

MATERIALS

- 外部仕上げ
- 屋根\_塗膜防水
- 外壁\_コンクリート打ち放し 短冊型枠
- ランデックスコート (大日技研)
- 内部仕上げ
- LDK
- 床\_サヘリフローリング (東京工営)、タイル
- 壁\_コンクリート打ち放し 短冊型枠
- 天井\_ホルバー 造作
- 主寝室
- 床\_サヘリフローリング (東京工営)
- 壁\_珪藻土 (フジワラ化学)
- 天井\_AEP塗装
- 浴室
- 床\_石JB
- 壁\_石 水磨き
- 天井\_レッドシダー

INSTRUMENTS

- 厨房機器\_
- オープン・食洗機: ミーレ
- IHコンロ: リンナイ
- 水栓金具: グローエ
- レンジフード: アムスタイル 造作
- 浄水器: メイスイ
- 衛生機器\_
- バスhtub: 石造作 (1階)、
- ジャクソン (2階)
- ヘッドレスト: 檜特注 (1階)
- 水栓・シャワー水栓: セラ
- 洗面ボウル: セラ
- 一部コーリアン造作
- ドライサウナ (1F)・
- ミストサウナ (2F): AVANTO



8



9

エントランス・ロビーからリビングに入った瞬間、屏風絵のように切り取られた大自然が目飛び込んでくる。遠くの山並みを借景に幾重にも織りなす自然の景色は、四季折々、時々刻々と変化する。



リビングから望む大自然が、唯一無二のアートになる

下階にある浴室は、可動のガラス壁を全開すれば前庭と連続するため、入浴しながら遠くの山並みを借景に、爽快な露天風呂感覚を味わうことができる。この浴室にはサウナや水風呂も完備されている。



7 エントランスは、低く抑えた天井が深い庇へと連続している。正面左の扉を開けると階段室があり階下へと通じる。8 広々としたエントランスポーチ。ガラス壁の内部がエントランスとなっている。正面の「コア」には地上から屋上まで通じる階段が内蔵されており、エントランス脇の扉からも出入りすることができる。9 パーゴラによって生まれる幾何学的な陰影が、アウトドアダイニングに美しい彩りを添えている。